

ひれが さきさん ぼんまつ こふん 鱈ヶ崎三本松古墳 現地説明会

平成27年11月28日開催

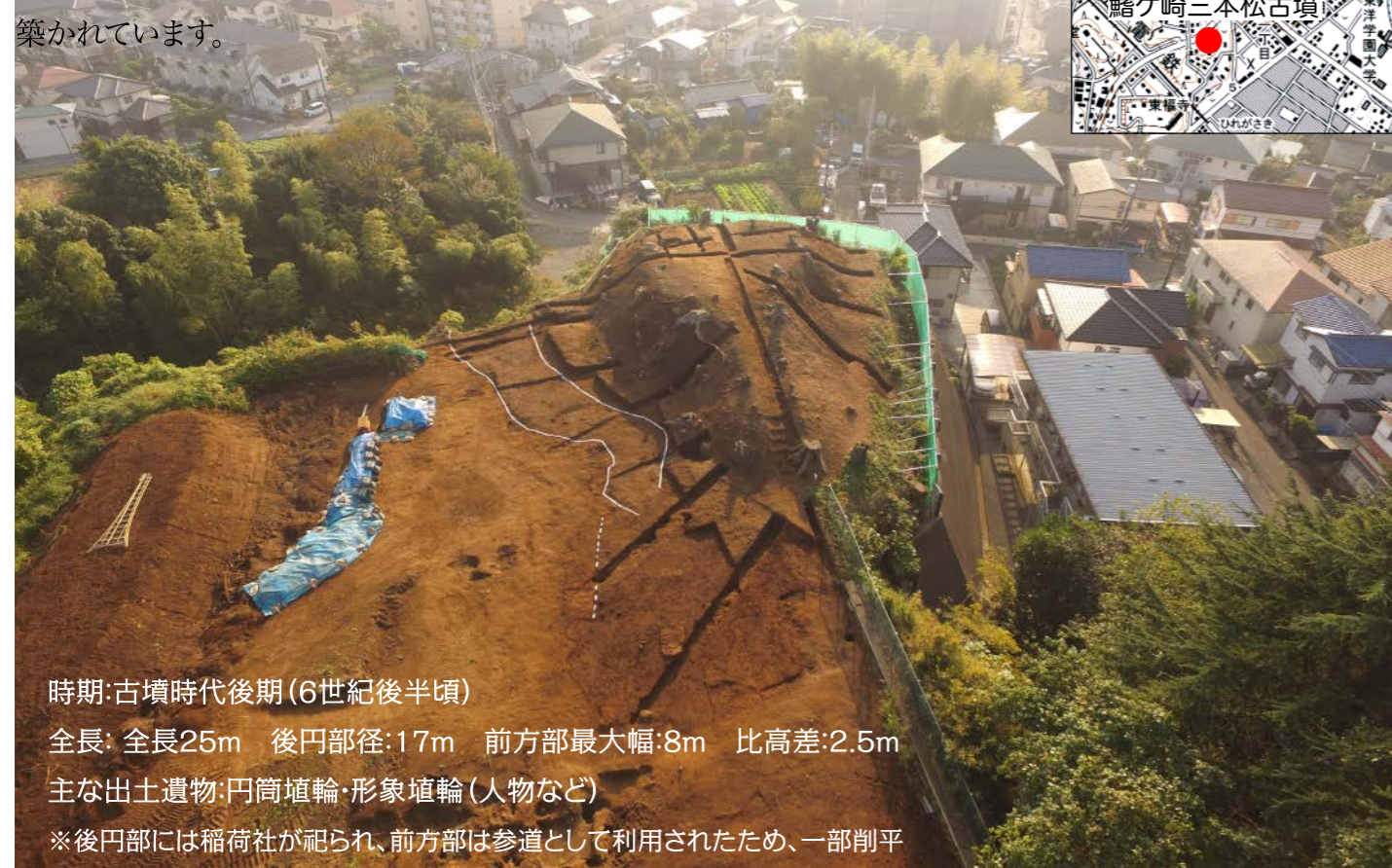
流山市教育委員会 生涯学習部 図書・博物館

現在、流山市教育委員会では、鱈ヶ崎・思井土地区画整理事業に伴い、平成27年7月より鱈ヶ崎三本松古墳の発掘調査を実施しています。江戸川左岸においては、市川市法皇塚古墳、同弘法寺古墳に次ぐ規模の前方後円墳です。鱈ヶ崎三本松古墳は、昭和30年代後半に古墳の裾のぎりぎりまで土が取られ急な崖となり、豪雨等により土砂崩れ等の危険があることから区画整理事業のなかでは古墳を現状で残すことが困難となっています。

調査では、古墳時代後期(6世紀後半頃)の円筒埴輪や、人物などの形象埴輪が出土しています。また、鱈ヶ崎三本松古墳に接する塚の越遺跡第1地点からは、中世から近世にかけての遺構が多く見つっています。これらのことから中近世の人々が、鱈ヶ崎三本松古墳を信仰の場とし、瓦葺きの稲荷社や石碑の建立などを行っていたことが明らかとなりました。

1 立地

鱈ヶ崎三本松古墳は、流鉄流山線鱈ヶ崎駅から北に5分ほど歩いた標高20mほどの台地上に立地します。現在は、急峻な崖のすぐ上に古墳がありますが、本来は下総台地の縁辺部に立地したと考えられています。古墳は、宮園や鱈ヶ崎の住宅街をはじめ、柏や松戸の市街地まで見渡せる眺望の良い場所に築かれています。



時期:古墳時代後期(6世紀後半頃)

全長: 全長25m 後円部径:17m 前方部最大幅:8m 比高差:2.5m

主な出土遺物:円筒埴輪・形象埴輪(人物など)

※後円部には稲荷社が祀られ、前方部は参道として利用されたため、一部削平

2 三本松古墳のむかし



古墳を北から撮影。手前は畑として利用(昭和38年岩崎卓也氏撮影)



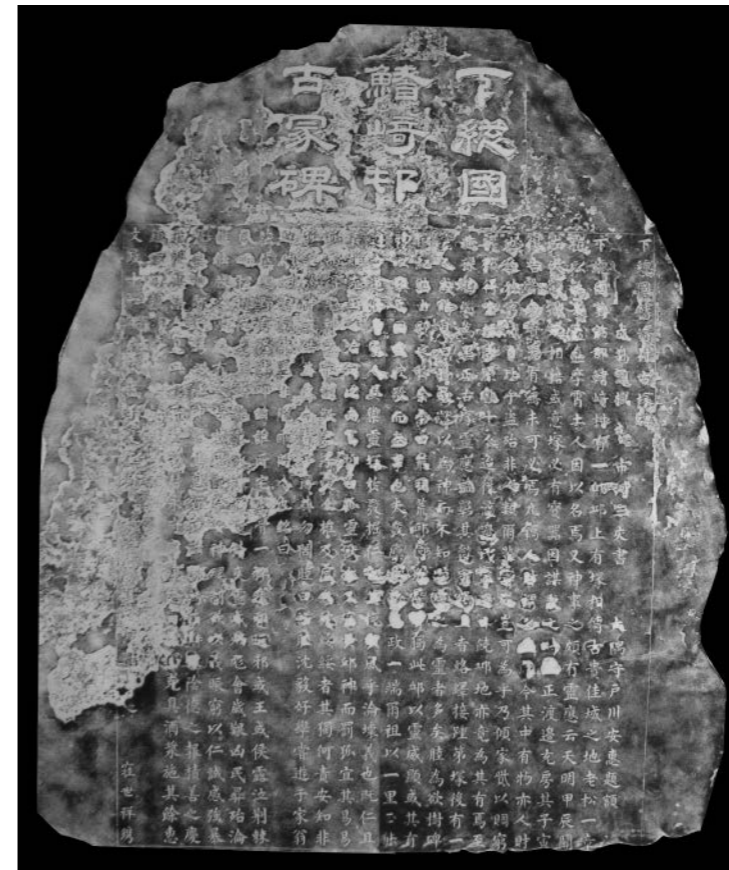
古墳を南から撮影。土取りされた直後か(昭和38年岩崎卓也氏撮影)



航空写真(昭和36年撮影)

3 鱈ヶ崎三本松古墳の碑(下総国鱈ヶ崎邨古冢碑)

市指定文化財である鱈ヶ崎三本松古墳の碑は、江戸時代後期、文政11(1828)年に建てられたものです。碑には『天明の飢饉の時、古墳を掘って財宝を掘り出し、食べ物にかえようとした村人がいたが、これをやめさせ私財を投じて農民を飢えから救った。』と記されています。碑は、屋外にあったために風雨等によって表面が劣化してしまいました。発掘調査を行うにあたり、一時的に移設し、現在は劣化を防ぐための修復作業を行っています。



碑の拓影図



移設前の碑と稲荷社



碑の保存処理

周溝

(古墳をつくるために掘った溝のこと)

古墳の北側で発見されています。中世以降の開発によって大きく壊されてしまい、前方部になると次第に判らなくなってしまいます。



周溝検出状況

中世・近世の遺構

古墳ぎりぎりまで中世・近世の遺構が見つかっています。

当時の人々は古墳をどのように思っていたのでしょうか？



粘土貼土坑

出土した埴輪

以前からこの古墳から埴輪が出土していることは知られていましたが、発掘調査によって、多くの埴輪があったことが明らかになってきました。

円筒埴輪をはじめ人物埴輪などの形象埴輪片が見つかります。



墳頂部 調査風景



古墳から出土した円筒埴輪

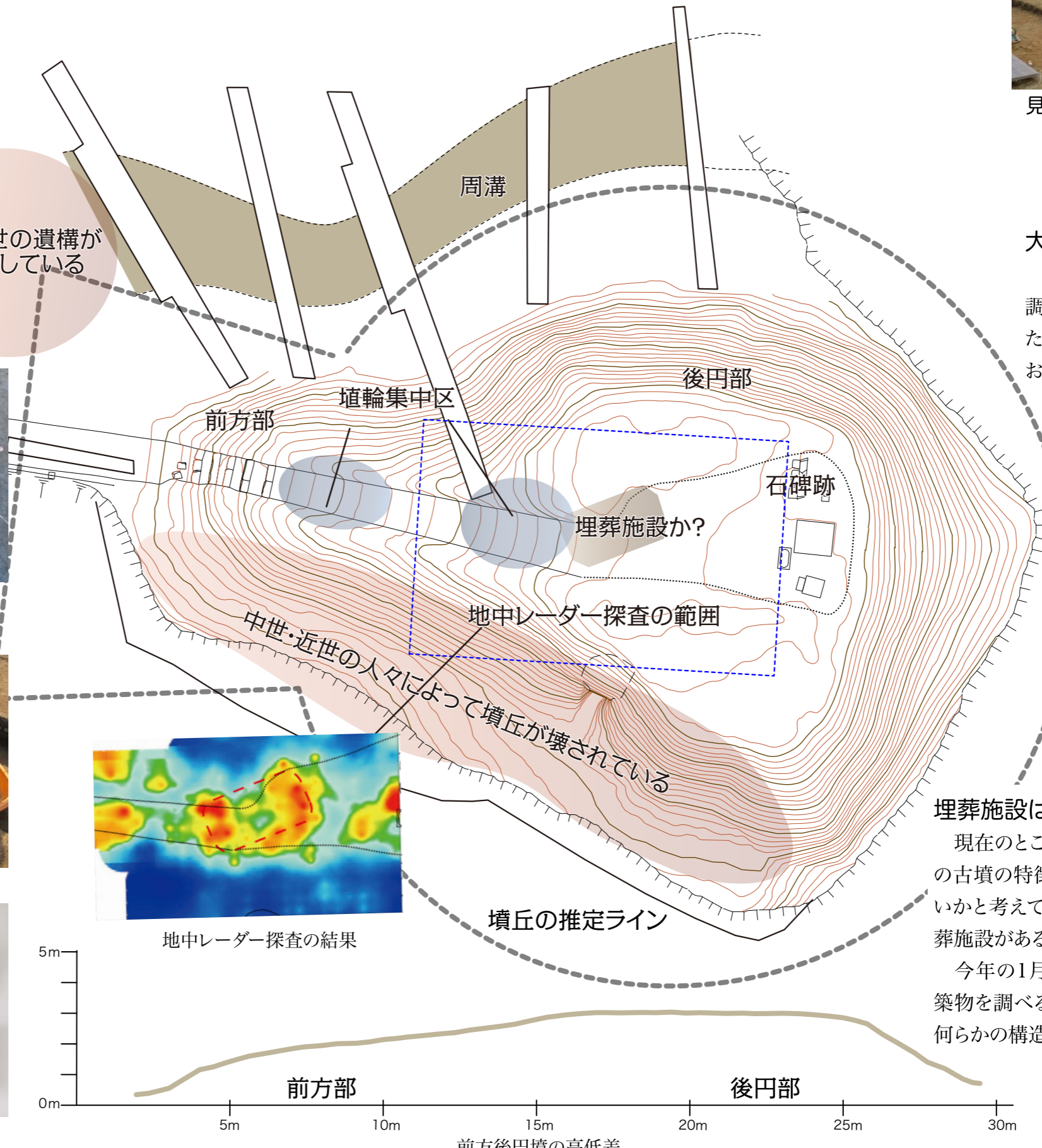
鱈ヶ崎三本松古墳の実態は？

今回、調査を進めていくに従って、古墳の様子が少しずつ明らかになってきました。

- ① 現在の形は古墳がつくられた時より、大きく形が変わってしまっています。
- ② 発見された周溝より、全長40m程の古墳であったと推測されます。



中世・近世の遺構が周溝を壊している



見学ステージから古墳全体を観察

大きく壊されていた墳頂部

石碑と稲荷社が建っていた下を調べると、多量の瓦が捨てられていたことが判りました。以前は瓦葺きのお社があったことが推察されます。



碑の下から出土した瓦

埋葬施設は・・・

現在のところまだ確認できていません。この地域の古墳の特徴から箱式石棺や横穴式石室ではないかと考えていましたが、現段階では竪穴式の埋葬施設があるのではと考えています。

今年の1月に実施したレーダー探査(地下の構築物を調べる調査)では、墳頂から1~1.5m下に何らかの構築物があるようです。